

カリキュラム Curriculum	文学研究科MC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
105	個別言語研究 <Studies in Individual Languages>			演習
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)		開講期 Semester	開講時間帯 Day and time
言語学	佐久間 淳一(SAKUMA Jun'ichi)		後期	木曜：2限
講義題目 Title	ウラル語学概論			
単位 Credit	2			
備考 Others				
履修条件 注意事項 Requirements for registration	履修条件は特にありません。			
授業の目的 Purpose	<p>言語の仕組みを知るには、できるだけ多くの異なるタイプの言語を知る必要があります。本講義は、既習の言語と異なるタイプの言語を学ぶことを通して、高い異文化理解能力と言語運用能力を身に付けることを目的としています。</p> <p>本講義では、フィンランド語、エストニア語を含むウラル諸語の構造上の特徴を概観することで、世界の言語の多様性を理解することを旨とします。</p> <p>The aim of this course is to get familiar with the Uralic languages and to capture their structural properties in order to realize the variety of the world languages.</p>			
授業の内容 授業の方法 Content	<p>ウラル語族は、世界の言語を構成する語族の一つで、フィンランド語、エストニア語、ハンガリー語などが含まれます。</p> <p>授業では、まず、ウラル語にはどのような言語が含まれ、それらはどこで使用されているのか、話者人口や世界の言語の中での言語学的な位置づけなどの話をします。続いて、ウラル諸語の音声学的、音韻論的特徴、形態論的特徴、統語論的特徴を概観します。また、ウラル諸語の歴史や周辺に分布するウラル語族以外の諸言語との関係についても学びます。</p> <p>適宜、ウラル語族の言語を使用する人々の社会や文化についての情報も提供したいと思います。</p>			
教科書 テキスト Textbooks	プリントを配布します。			
参考書 References	<p>Daniel Abondolo (2006) The Uralic Languages, Routledge.</p> <p>Angela Marcantonio (2002) The Uralic Language Family: Facts, Myths and Statistics, Wiley and Blackwell.</p> <p>その他の参考書は、授業中に適宜紹介します。</p>			
受講生の 自宅学習 Preparation and review	授業で学習したことを自宅で復習してください。必要に応じて課題を課すことがあるので、自宅で取り組んで、次回の授業時に提出してください。			
成績評価の 方法と基準 Evaluation	<p>課題への取り組み(20%)、学期末試験(80%)の合計で評価します。課題への取り組みで、学習への意欲を確認します。また、学期末試験で、ウラル諸語の言語学的な特徴が理解できているかどうかを確認します。</p> <p>なお、5回以上講義を欠席した場合は、学期末試験の点数にかかわらず単位を認定できないので、注意してください。</p>			
連絡方法 Contact information	事前にメール(jsakuma@lit.nagoya-u.ac.jp)をもらえれば、随時対応します。			